

からから 便り

もくじ

- 緑と縁の道をゆく [岩手と北海道編]
- 交流会のご報告
- 道内に避難している高校生の避難元企業への就業支援についてへ
- 寄稿「1ページのたより」
- 北海道における被災避難者の受入状況
- 編集後記



白浜が美しい、岩手県大槌町吉里吉里海岸。砂浜では、澄んだ湧水が海に流れ入る様子がみられる。吉里吉里の由来は、アイヌ語で「歩くときリキリと音を立てる砂浜」またはその音そのもの、と言われている。

2019年2月撮影

17世紀ごろ、岩手や青森、宮城北部にもアイヌの人々が暮らしていたことから、東日本大震災のときに沿岸部への支援活動の拠点となった「遠野」や宮古市田老の「撰待」、大槌町の「吉里吉里」、宮城県の「登米」など、アイヌ語由来といわれる地名があります。江戸時代、盛岡藩領内には「戒村」というアイヌの人々の居住区がい



明治以降、岩手県から入植移住した場所を調べると、当別町、真狩村、占冠村(トマム)、鷹栖町、幌延町(雄信内)、芽室町、大樹町、白糠町などが記録に残っていますが、岩手と北海道はもっと古くから関わりが深かったようです。

その金田一京助が、自身も苦しいのにお金を工面し援助したのが、同郷の石川啄木です。奔放すぎて友人たちから絶縁されるほどの啄木ですが、金田一はその才能をかげがえなく思ったようです。



「かなしきは小樽の町よ 歌ふことなき人人の声の荒さよ」小樽市相生町の水天宮境内にある歌碑。ここからは港が見渡せる。ネガティブな歌のようだが、活気に満ち、たくましく働く小樽の人々を賛辞して詠まれた歌。水天宮まで南小樽駅から徒歩13分。

くつもあり、アイヌ人と和人の境界はあいまいで、生活文化も影響しあっていたそうです。盛岡藩は領内のアイヌの人々を仲介に、蝦夷地のアイヌ人と盛んに交易をしていました。ところで、アイヌ語研究の創始者金田一京助は、岩手県盛岡市出身です。明治後期、まだ日本人でアイヌ語を研究する者がおらず、自身が東北出身であることから大学の研究テーマにアイヌ語を選んだのがきっかけです。とはいえ、北海道やサハリンなどへ出向いての研究は費用がかさみ、親や親戚、知人にお金を工面してもらいながら「生活の心配よりアイヌ語の研究を遊ぶ」という人生をおくりまします。

明治30年代の札幌 (写真所蔵: 北海道大学附属図書館)



胸像の視線は移り変わる街の様子を見ているよう。



札幌市北区北7条西4丁目の札幌クレストビル1階ロビーにある石川啄木の胸像。啄木が下宿していた田中サト宅がかつてここにあった。

石川啄木は短い人生の中で北海道に暮らした時期がありました。各地に歌碑が建てられているので、何年も暮らしていたのかと思ったら、1年ほど。その間に函館から札幌、小樽や釧路へ転居したというから驚きです。札幌に暮らしたのは2週間ほどでしたが、「札幌はまこと美しき北の都なり(中略) 詩人が住むべき都会なり。」と新聞記事に書き、亡くなる前には「札幌」という短編小説を書き残しています。啄木が当時暮らしていた下宿は、現在の札幌駅から徒歩1分、ヨドバシカメラの斜め向かいにありました。当時はその場所から、広い空と北海道庁の八角塔が見えたことでしょう。

※参考資料 角川日本地名大辞典1北海道 下巻 (角川書店)

交流会のご報告 「ひろい空と まきばで交流会」



ヨガ体験では、まずはじめに呼吸のしかたを教
えていただきました。窓の外には散策に向かう
方々の姿が見えました。

10月23日(日)、栗山町の菅野牧園さんで行った交流会には、避難に至った理由も、今、お住まいの市町村も違う4世帯、8名の方が参加しました。菅野さんご夫妻も含めてほとんどが初対面。けれども、ファームレストランの窓から見えるひろい空と美しい風景が、すぐに気持ちを和ませてくれました。

当日の朝はあいにくの大雨。でも、自己紹介をしている間に雨は上がり、予定していたヨガ体験と牧園散策、そして菅野美枝子さんのつくる美味しいランチのあと、義樹さんの進行で「対話の時間」へ。日常では話すことがなくなった震災の経験や今の思いを、それぞれに伝え合いました。津波で家が壊されて蔵の二階に暮らしたこと、原発事故後のさまざまが今も心の中でモヤモヤしたままのこと、もう大丈夫と思っていたけれど口にしたら涙が出てしまうこと、話し始めると自然と声が大きくなるくらい楽しかった福島での暮らし、津波が町を飲み込んでいく様子を子ども達に見せまいと必死だったこと、今が一番充実している、と感じられること…。



交流会のアンケートに「同じ立場の人との交流は、心が



牧舎を見学後、子どもたちは大きなトラクターに載せてもらいました！

開かれる」と、書いてくださった方がいました。企画いただいた菅野さんご夫妻が牧畜の傍らレストランを開いた大きな理由は、気軽に立ち寄り、これからも繋がりを育てる場が必要だと思ったから。会が終了したあとも、立ち話が続きます。

「また来ますねー」「今度は家族と」——そう思える場所がひとつ、ふえました。

道内に避難している高校生の避難元企業への就業支援について 福島県/宮城県/岩手県

【福島県】

福島県出身者で、現在県外に避難している高校生のうち、高校卒業を機に福島県内の企業へ就職を希望する生徒に対して、県内の各高校に配置した進路アドバイザーが、**就職を希望する地区の企業求人情報を提供**します。

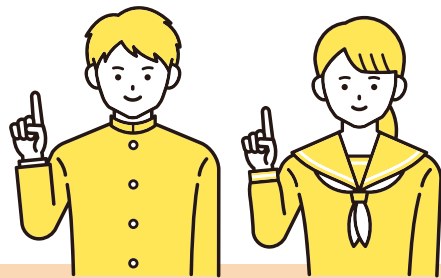
求人情報の提供を希望する生徒は、現在通っている高校の進路指導担当(またはクラス担任)の先生を通して、相談窓口にお問い合わせください。

その際、「現在通学している学校名」「学校の連絡先」「就職を希望する地区」「希望する業種や職種」「帰還予定時期」などをご連絡ください。

◆お問い合わせ先

〈事業に関する問合せ〉福島県教育庁高校教育課
[電話] **024-521-7773**

〈相談窓口〉(株)福島人材派遣センター
進路アドバイザー係
[電話] **024-521-5111**



【宮城県】

〈帰郷に関する相談〉
宮城県復興支援・伝承課震災復興支援班
[電話] **022-211-2424**

【岩手県】

〈「いずれは岩手にU・Iターンしたい」という方へ〉
※避難者に限らない
いわてU・Iターンサポートデスク
[電話] **019-621-1171**
[HP] <https://ui-turn.shigotoba-iwate.com/>



寄稿 / ページのたより

2011年10月15日、いわき市から幼い息子3人とわたしで函館にきました。家族が別々に暮らしても、安心した環境で子育てをしたいというわたしの強い思いからの、震災から半年が経つての行動でした。

支援団体の方、同じ団地に住む方に気にかけて頂き、大きな支えとなりました。

避難者と支援者という立場が申し訳ない気持ちになることもありました。避難してきたと周りに話して気を使わせたくないと思い、静かに生活していました。それでもいつか恩返しをしたい、何か一緒につくれるものがあつたらと考えていました。

初めは半年の避難のつもりが数年たつてもいわきに戻ることはなく、夫はいわきの自宅を売却。函館で合流しました。

今となつてはよい決断だったと思いますが、夫が一番不安だったはずです。

いわきでは専業主婦だった私は、函館に来てからいろんな職種についてみました。弁当配達、営業、農業、縄文土器発掘、学童指導員、給食調理員、ゲストハウススタッフ、お菓

子製造、スポーツジムスタッフなど。数えたら10年間で10個以上ありました。

2019年、働いていた場所がコロナの影響で営業できなくなり、新たな職探しです。30代中盤になり、せっかく働くなら母として妻として、一人の人間として自分が経験したアクティブな部分を生かして仕事に出来ないかと考えました。

静かに子育てで中心で暮らしていたわたしが、自分をオープンにして仕事をやる。そんなことしたら周りからどう思われるかな。そこで葛藤が生まれまます。でも人生はあつという間、まずやってみよう！

2021年、運動や健康に興味がありジムスタッフをしていたこともあって、独立開業をしてプライベートジムをオープンすることにしました。少しの貯金と車を売却して事業を始めました。函館に避難してちょうど10年目の日です。

避難してから11年、小学1年だった長男は高校3年。次男は高校1年。1歳だった三男は中学1年になりました。開業してまだ1年、苦労や学びの連続です。

当たり前の日常が当たり前ではない。健康の大切さを伝えて、函館の皆さんに少しずつ恩返しできればと思っています。

お子さまの独立などで家族の変化がおとずれた方々、開業された方々、こんな笑いや苦労があつたよ、などみなさんとお話ししたいです。次の旅行先はぜひ函館へ。

函館は夜景、五稜郭タワー以外の魅力もたくさんあります。

2024年にはフィンランド発祥のモルックというスポーツの世界大会が行われます。木の棒を投げて点数を競い合うユニバーサルスポーツです。函館にお越しの際は、素敵な宿やお店をご紹介します。函館山でモルックも一緒にやりましょう！

(ペンネーム きつたかゆか)

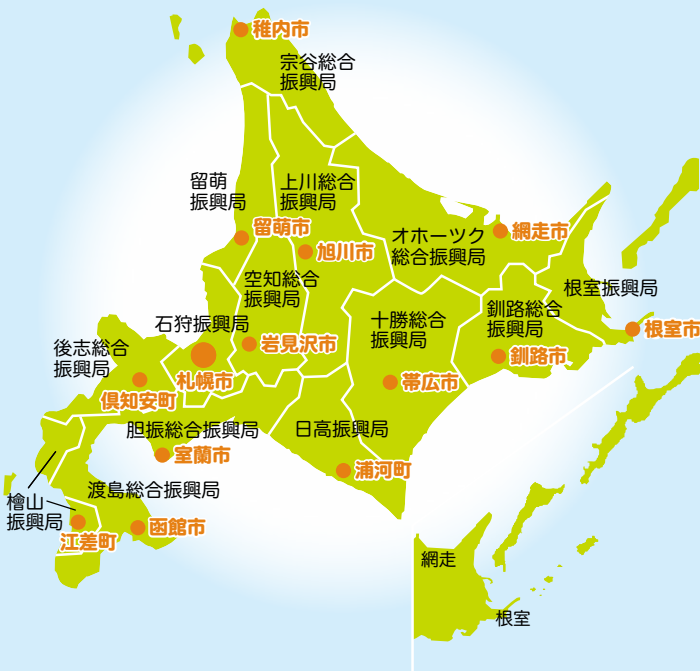
災害が教えてくれた！私の人生



私の未来は輝きます！皆さんと一緒に！！

北海道における被災避難者の受入状況 [2022年8月1日現在]

※北海道のホームページでもご覧になることができます。



単位：人

		岩手県	宮城県	福島県	その他	合計
空知	8市町村	0	0	28	0	28
	札幌市	14	14	314	105	447
石狩	江別市	6	4	12	0	22
	恵庭市	0	0	20	0	20
	北広島市	0	0	13	0	13
	他3市町村	0	1	15	0	16
後志	小樽市	0	4	15	9	28
	他4市町村	0	2	8	0	10
胆振	苫小牧市	1	9	13	0	23
	他4市町村	0	0	17	0	17
日高	2市町村	0	0	3	5	8
渡島	函館市	5	9	57	8	79
	北斗市	0	4	12	0	16
	1市町村	0	0	5	0	5
上川	旭川市	9	8	40	9	66
	他6市町村	0	4	11	7	22
宗谷	1市町村	1	0	0	0	1
オホーツク	北見市	0	1	11	0	12
	他3市町村	0	2	7	0	9
十勝	帯広市	4	3	10	3	20
	他1市町村	0	0	1	0	1
釧路	2市町村	0	0	3	0	3
合計	46市町村	40	65	615	146	866

上記の避難者数は、復興庁が公表している「避難元への帰還の意思を確認できた方」の数です。なお、北海道庁では、さらに幅広く「ふるさとネット」(下記参照)に登録しているみなさまに、今後も引き続き、お知らせ(本誌)をお届けしてまいります。
 〈からから便り郵送世帯数(避難元別)〉：岩手県20、宮城県72、福島県198、その他36 ※2022年9月現在

避難者相談窓口
 TEL 011・200・0973
 NPO法人 北海道NPOサポートセンター
 平日 10:00~17:00
 FAX 011・200・0974
 info@hnposc.net
 〒064-0808 札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園
 地下鉄東豊線「豊水すすきの駅」6番出口から徒歩約7分
 地下鉄南北線「中島公園駅」1番出口から徒歩約5分

全国避難者情報システム「ふるさとネット」の登録について

「からから便り」は「ふるさとネット」の登録情報をもとに発送しています。「ふるさとネット」は北海道が運用する被災避難者サポート登録制度です。この制度は自治体の転出入届とは連動しておらず、転居の場合は住所変更のご連絡をいただかなければ、郵送物が「所在不明」として返送されてしまいます。転居、登録解除など、「ふるさとネット」の登録内容に変更がある場合はご連絡ください。

■連絡先

- ① NPO 法人 北海道 NPO サポートセンター
- ② 北海道総合政策部地域創生局地域政策課
電話：011-206-6404
メール：shienhonbu@pref.hokkaido.lg.jp
- ③ 避難先市町村の担当窓口(市町村により部署が異なります)

編集後記

毎号1ページに掲載している「縁と縁の道をゆく」をつくりながら調べ物をしていると、初めて知ることがたくさんあります。特に、地名の由来は興味深く、ついつい脱線して調べ過ぎてしまうことも。からから便りを制作する機会をいただいて、豆知識が増えました。

さて、継続しているインスタ勉強交流会も菅野牧園さんでの交流会も、参加されている皆さんと過ごし、「ここからこれから」を感じています。次号は2023年発行！少し早いですが、来年もどうぞよろしくお願いたします。(金榮)

からから便り Vol.3 ■ 2022年11月10日発行
 発行：NPO法人 北海道NPOサポートセンター
 〒064-0808 札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園 201
 電話：011-200-0973 FAX：011-200-0974 メール：info@hnposc.net
 委託元：北海道
 ※東日本大震災により北海道へ避難されている方で、情報紙の送付を希望される方は北海道NPOサポートセンターまでご一報下さい。

お預かりした個人情報は、避難者の生活支援のために利用するほか、出身県への提供など限定した目的のみ利用し、その他目的には一切利用いたしません。

【無断転載・コピー】

本紙掲載の写真・図版・記事などを許可なく無断で転載することを禁じます。